



「第8回全国ユース環境活動発表大会 全国大会」の審査結果について

令和5年2月6日（月）

<環境省大臣官房総合政策課環境教育推進室同時発表>

環境活動を行っている全国の高校生を対象とする「第8回全国ユース環境活動発表大会（全国大会）」の審査結果についてお知らせします。

## 1 概要

- 目的：未来を創るユース世代の活動について、優れた環境活動事例を発表する場を設けるとともに、表彰等を行うことによって、実践活動をサポートするもの。
- 募集期間：令和4年9月16日～11月2日
- 応募件数：108件
- 主催：全国ユース環境活動発表大会実行委員会  
(環境省／独立行政法人環境再生保全機構／国連大学サステイナビリティ高等研究所)
- 後援：読売新聞社
- 協力：地方環境パートナーシップオフィス（EPO）、地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）、ESD活動支援センター
- 協賛：キリンホールディングス株式会社、協栄産業株式会社、SGホールディングス株式会社、株式会社タニタ

## 2 審査・投票結果

- 環境大臣賞：宮城県農業高等学校
- 環境再生保全機構理事長賞：群馬県立藤岡北高等学校
- 国連大学サステイナビリティ高等研究所所長賞：熊本県立熊本農業高等学校
- 読売新聞社賞：高校生エシカル推進委員会
- 特別賞（高校生選考賞）：長野県佐久平総合技術高等学校
- 特別賞（先生選考賞）：北海道士幌高等学校
- 協賛企業特別賞：晃華学園中学校高等学校
- SDGs活動特別賞：大阪府立堺工科高等学校 定時制の課程
- 優秀賞：北海道羽幌高等学校、岩手県立花巻農業高等学校、

愛知県立佐屋高等学校、山口県立下関西高等学校（公民班、化学2班）、  
愛媛大学附属高等学校、愛媛県立長浜高等学校、  
大分県立大分商業高等学校

※高校生選考賞・先生選考賞：全国大会出場校の高校生等・先生の投票結果  
※受賞した高校の活動概要は別添参照

独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金部

直通：044-520-9505

部長：森田 将義

課長：石川 倫

担当：福田、佐伯、大木

No	地方	都道府県	高校(団体)名	チーム名	活動タイトル	紹介文
1	北海道	北海道	北海道士幌高等学校	環境班	持続可能な地域環境を目指して～次の100年へ、地域を守る防風林造成を～	士幌町開町100年。農村ユートピアを掲げ、多くの農業発展を遂げた士幌町。明治以降の開拓が進むとともに農地拡大のため、原生林が次第に伐採されてきました。士幌町がある十勝地域は、十勝風と呼ばれる突風の嵐風から農地を守る防風林の更新が課題となっています。この課題を解決するために、農家への意識調査活動や樹種の選定による防風林調査活動、地質資源創出活動を実施しています。次の100年を次世代へ引き継ぐためにも、私たちは、防風林更新にあり農業生産の維持や地域環境の維持、原風景や資源利便など農業や環境、文化の3つの調和を図り、これからも持続可能な地域環境を目指し活動が続けます。
2	北海道	北海道	北海道羽幌高等学校	SBFプロジェクトチーム	羽幌町に飛来する海鳥と今後の課題	私たちは一年生で年25時間、羽幌シーバードフレンドリー推進協議会や環境省の方々に講師として来ていただき、生物調査や海岸清掃などを行い、課外活動等を通して環境活動について学ぶ授業を受けています。それと並行して、私たちプロジェクトチームは羽幌町の海鳥の保護について深く探求しています。環境省の方々や絶滅危惧種である海鳥の数をどう守り、増やせるかを協議したり、イベントでの啓発活動やボランティア活動などに積極的に参加し、多様な生物が共存できる社会に少しでも貢献できるように頑張りたいです。
3	東北	宮城	宮城県農業高等学校	作物部門	#ZEROマイブラ2	地元の砂浜には5mm程のプラスチックが大量にあり、これは稲作で使われるプラスチック肥料の残骸で海洋汚染を起していました。ウレアホルム肥料を使うことで育てる時にプラスチック肥料を使わない栽培法の構築に成功しました。商品化して通常よりも安くお米を作ることができず。この実績が認められ、国会資料として提出されプラスチック肥料を使わないことが2030年度までに0にすることがJ A全農で決定し、日本のプラスチック肥料を0にする活動に繋がったのです。
4	東北	岩手	岩手県立花巻農業高等学校	ソーセージ研究班	サステイナブルな地域創生～ホップの抗菌作用を活かした商品開発に関する研究～	私たちは、岩手県北上市の特産物である二子里芋(ふたごさいち)の頭芋(かしらいも)が毎年3トンも廃棄されていることを知った。その有効利用をソーセージでできないものかと衛生面に注意しながら試行錯誤をしている。その中で先輩方の課題であった「長期保存可能なソーセージ」に視点を置き、遠野市で栽培している生産量日本一のホップにたどり着いた。そのホップの根花の中に抗菌力を持つとされているルプリンを抽出し、製造から微生物検査までいい、エビデンスに基づいた検証を繰り返し36日間の賞味期限をつけることができた。自然由来の力で、より長期保存が可能になれば、食品ロスを抑えるサステイナブルな商品として期待を持っている。
5	関東	群馬	群馬県立藤岡北高等学校	環境工学部	小川の未来を考える～地域連携・協働によるヤリタナゴ保護活動～	藤岡北高校では、市の天然記念物であるヤリタナゴの保護活動を地域と連携・協働で実施している。「小川の未来を考える」をスローガンに次世代へ承継していくべく、環境省の「小川の未来を考える」をスローガンに、1. 啓発活動、2. 生態環境の維持管理及び創出の2つを柱に活動をしている。啓発活動によりヤリタナゴ知名度は50%以下から80%に向上した。また、藤岡北高校にタナゴピオトープを作成し、幼児や小学生対象に年間約300人の環境教育に活用している。更に「ヤリタナゴ懇談会」を立ち上げ、ヤリタナゴの繁殖、モニタリング、市民と連携・協働の保護活動プラットフォームを構築し、高齢化、縮小した活動を活性化し、地域環境保全、コミュニティ形成に繋げた。
6	関東	東京	昇華学園中学校高等学校	Banana to The Futures	バナナペーパーを普及するためのプロジェクト	私たちはバナナペーパーを普及するための活動を行っています。具体的には、ポスターや動画を作成して文化祭にて展示、企業と連携してバナナペーパーを題材とするSDGs教材を作成等です。また他校との活動発表会に参加したり、小学生向けのワークショップを企画・実施しました。同級生から始めたこのプロジェクトは、現在中高合わせて25名程度のメンバーで活動しており、少しずつ校内外に広がってきていると感じています。私たちはこの活動を通じ、バナナペーパーの存在を知ってもらえただけでなく、身近なことからSDGsに繋がることができてほしいと思っています。そして、日常生活で紙を使う際の選択肢の一つにバナナペーパーを考えてもらえるようにしていきたいです。
7	中部	長野	長野県佐久平総合技術高等学校	チームさくさけ	カスを価値に！～未来へ佐久酒粕プロジェクト～	長野県佐久市は「酒の郷」とも呼ばれています。私たちはこの地域資源を生かし、地元酒造と連携した日本酒造りに取り組んでいます。その中で、日本酒造りの副産物として出る酒粕の需要が低迷し、一部が廃棄されているという地域の課題を知りました。そこで、酒粕の需要拡大と食品ロスの削減を目的にこの活動をスタートしました。昨年度は地元「酒屋・洋菓子店の協力のもと、酒粕を使ったパンとクッキーを商品化しました。今年度は、新たに地元ラーメン店とコラボして酒粕を使ったラーメンを開発。「佐久ラーメン甲子園」で優勝するほど自信の1杯が完成しました！また、酒粕の魅力や食品ロスの問題を発信する普及・啓発活動にも力を入れています。
8	中部	愛知	愛知県立佐屋高等学校	科学部	愛知県愛西市内用水路に生息するカス類	佐屋高校科学部は水田生態系の保全活動をテーマに、これまで水田や用水路に生息する生き物を調査してきました。活動中、水路に多くのカス類が生息していることが判明し、その大半が外来種のアカミカメでした。アカミカメは地域に侵入すると、食性から生態系を脅かします。私たちは今回の取組で、水路内に生息するカス類の季節変動や、採捕個体の雌雄判別・年齢・体長などを調べるとともに、駆除後の処理方法も考えました。また行動特徴も調査することにしました。そのため、カメの甲羅に小型カメラを取り付け、水路やため池に放し、どのようにカメが行動するのか追いかけてきました。撮影された映像を見て、カメの目線で見える外の世界が分かってきました。
9	近畿	兵庫	高校生エシカル推進委員会	高校生エシカル推進委員会	気候変動×楽しさ～私たちが行動する意味～	気候変動の影響1番受ける私たちの世代なので、私たちが中心となって行動を起こしていこうという理念のもと、イベントの企画や小中学校への講演会活動、プース出展などを全て自分たちで考え、行動しています。また、気候変動の事実をただ伝えるだけでなく、環境漫才や環境ラップ、環境ソング、コスプレなど楽しさや面白さを加えた啓発を行っています。兵庫県を中心に全国に仲間がおり、現在も仲間を募集中です。気候変動を解決したい思いを持つ学生が学校の枠を超えて繋がり、自分の得意なことを活かして気候変動について啓発する。想いは熱く、発信は楽しく、1人の100歩より100人の1歩を大切に、私たちは今日も活動しています。
10	近畿	大阪	大阪府立堺工科高等学校 定時制の課程	エコ・プロジェクト部	脱炭素！地球温暖化防止プロジェクト	「太陽光発電」に取り組み、「ポータブル充電機」に蓄電をして、「バイオディーゼセル発電機」との組み合わせで、地域の環境イベントなどで、コンセントを使わずに電気の供給をしています。また、海水や河川やプールの水、風呂の残り湯などを飲料水に出来る浄水(濾水)装置(コロナ菌やセシウム・鉛・水銀など可)もガソリンや軽油ではなく、プラスチックゴミで作った油やつるがら油で稼働出来るように改良しました。そして、地域の方々に「地球環境」について考えてもらうために「環境啓発プロジェクト」を立ち上げ、地域産業で「啓発グッズ」を作製して、配布をして、環境啓発活動もこなしています。
11	中国	山口	山口県立下関西高等学校	公民班	下関市風力発電導入大作戦～脱炭素社会の実現に向けて～	私たちは、風力発電を導入するために、地域住民の同意を得るには何が必要かを探究しています。風力発電の導入を後押しすることで、脱炭素社会の実現に貢献することが目標です。上の写真は、風力発電建設の反対運動に参加された市議会議員の方のインタビューをした際のものです。風力発電の課題を住民の反対理由やコスト面、国防問題をともに考えることができました。また、2030年度に再生エネルギーによる発電の割合を36～38%にするという政府の目標を下関市で達成するために、あと何基の風車が必要かを計算しました。下関市を環境にやさしい持続可能な街にするために、これからも探究を続けていきます！

12	中国	山口	山口県立下関西高等学校	化学2班	カイロを変えろ!!	冬に多くの人を使うカイロ。学校で毎日大量に出るチョークの粉。私たちはこの二つに注目し、新しいカイロを作ることで SDGs の「作る責任・使う責任」、「陸の豊かさを守ろう」に貢献できると考えました。そこで、カイロに使われている活性炭をチョークの粉に変えて、カイロを作る実験を行いました。実験の結果、チョークは活性炭の代わりになることを立証しました。これからは、チョークを使って長時間一定の温度を保つカイロを作ることができるよう、改良を重ね、実用化を目指します。いつかあなたの手の中にあるカイロには、チョークが使われているかもしれないですね。
13	四国	愛媛	愛媛大学附属高等学校	理科部ブラカールズ	瀬戸内海のマイクロプラスチック汚染の実態と対策に向けた啓発活動	次の3つの取り組みを通して「プラスチックを上手に使う生活を続けながら海の環境も守っていく未来」を目指して活動しています。 (1) 瀬戸内海のマイクロプラスチック汚染の実態調査 (調査・分析) (2) 海洋生分解性プラスチックの開発と経済生産技術 (実験・研究) (3) 海洋環境問題と研究に関する情報発信と啓発活動 (連携・共創) 瀬戸内海は生活ゴミ以上に地元の漁業や農業に由来する産業系プラスチック汚染が深刻で、海洋生分解性プラスチックの開発・普及が必要です。そのため調査と研究を進めています。その成果は大学・企業・行政・マスコミ・各種団体と連携しながら、イベントや発行物を通して情報発信や啓発に取り組んでいます。
14	四国	愛媛	愛媛県立長浜高等学校	チーム530	カワイいのぼり旗でゴミを減らそう！ えひめゴミ0プロジェクト	私たちの長浜高校には、1年生全員が地域研究に取り組む「キャリアデザイン (総合的な探究の時間)」という授業があります。この授業では、地域の課題を見つけ、これを解決すべくチームで研究に取り組みます。私たちはゴミ問題を地域の課題と捉え、捨てられるゴミを減らすことを目標に2年間に渡って活動しました。そして、本校をモチーフにした漫画の主人公をのぼり旗にデザインし、公園に立てることで、捨てられるゴミの量を劇的に減らすことに成功しました。この取組は現在も継続しており、自主的な美化活動が始まるなど、活動の輪が広がっています。
15	九州 沖縄	熊本	熊本県立熊本農業高等学校	養豚プロジェクト	廃棄豚脂の有効活用に関する研究 ～養豚業におけるゼロエミッションへの挑戦～	私たちは食品廃棄物を利用したエコフイードの研究をおこない、畜産農家の飼料費・食品企業の処分費・輸送や焼却時のCO <sub>2</sub> 削減に繋がる活動が続けられました。しかし、本校で豚肉のスライス加工の際に発生する豚脂を廃棄していることに気づきこれまでの活動に対して強い矛盾を感じました。そこで、廃棄豚脂の有効活用を回り廃棄ゼロを目指した活動をする事にしました。様々な挑戦の結果、機能性の高い洗濯用石鹸が出来上がりました。豚脂石鹸は市販の洗濯石鹸に比べ1.7倍洗浄力が高いことが分かりました。石鹸使用後の水質調査においても生物多様性が認められる結果となり、養豚業におけるゼロエミッションを達成し、少しでも持続可能な生活を実現させたいです。
16	九州 沖縄	大分	大分県立大分商業高等学校	商業調査部	食品ロスさせない連携～規格外トマトを活用した商品開発～	私たちは「食品ロス削減」をテーマに、本来であれば廃棄されてしまう規格外トマトを活用した商品開発に挑戦し、オリジナル商品「とまドレ・とまソース・とまみそ」を開発しました。この商品は、大分県内の小売店から排出される生ゴミや食品残渣が原料の堆肥で育ったトマトの中でも、規格外のトマトが原材料として使われています。ごみが商品として生まれ変わる「食品リサイクルループ」を実現した商品で、未来の地球環境を、みなさんと一緒に創る商品でもあります。私たちは、この取り組みを一人でも多くの皆さんと共有することで「安心できる未来の地球環境」を一緒に創りたいと本気で考えています。